

「白糸の氷の芸術」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

北軽井沢から軽井沢に下りる道路は 2 本しかない。一つは国道 146 号線。広くて交通量も多く、夜間でも除雪があって安心だ。もう一つは、「白糸ハイランドウェイ」という、草軽交通が運営する、有料道路である。私はこの道が好きである。特に冬は、さまざまな動物が現れ、私は「動物街道」と呼んでいる。



今年はとても寒かったが、雪は比較的少ない。路面は乾いていて、走りやすい。私が通るのは日曜の 18 時過ぎが多いので、大抵は料金所に係員がいなく、事実上「無料」である。しかし、この日は有料道路の入口に大きな看板がたっていて、「氷のアート開催中」と書いてある。料金所にも人がいて、軽井沢（三笠）までの料金 400 円を支払った。驚いたことに、ホッカイロを人数分くれて「どうぞお気を付けて！」



白糸の滝の売店を過ぎると、路肩に美しい氷壁が見

えてきた。青くライトアップされている。パンフレットには「ハイブリット車が電源を供給」と書いてあったが、実際には左下写真に写っている小ベンツ（軽トラック）が、電源を供給していた。消費電力が少ない LED 電飾なので、軽トラの発電機で十分なのだろう。



氷壁は、気温が下がった晩に、矢ヶ崎川の水を霧のように吹きつけて人工的に創ったものである。氷の内側と外側の両方からライトアップしているので、実に立体感がある美しい。「蒼氷（そうひょう）」ということがあるが、人工的な光線とはいえ、まさしく「蒼氷」であった。



氷壁の端には、ハート形の電飾があって、（この写真には写っていないが）アベック（だと思ふ）が、かわるがわる寄り添って、写メを楽しんでいた。

観光資源に乏しい冬の軽井沢にあって、毎年実施されているこのイベントは、実に心温まる。お金も手間もかかる作業だろうが、是非毎年続けてほしいと、私は願っている。